

眞実は笑わない



# 真実は笑わない

作・中野 守 (中野劇団)

## 登場人物

香芝しば 薫かおる 船長 四十七歳

香芝ようこ 葉子 料理長 四十七歳

香芝なほこ マミ 二十五歳

香芝 菜穂子 二十三歳

香芝 蓮司れんじ 靴磨長 十八歳

三郷さんこう 正太郎しょうたろう 四十七歳

斑鳩いかるが 義輝よきてる (赤髭) 操舵手 四十六歳

高田たかだ

桃髭

波の音。鷗の声。木の軋み。帆を打つ風。

木造帆船。甲板に無秩序に積み上げられた巨大な木箱。その上を帆の群が舞う。板張りの壁の中央には扉がついており、その奥に下階の船室へ通じる階段がある。上方のマストから垂直に張られたワイヤーと水平に張られたロープが格子状をなす。

板張りの床に横たわる高校三年生、香芝蓮司。

蓮司

ん…。

蓮司、目を覚ます。上体を起こすと、頭痛が襲う。手には何故か封筒。

周りを見回す。見たことのない板壁。手摺の向こうに広がる海。

蓮司

何これ…。何処？

ビジネススーツ姿の女、桃髭が板壁の上に腰掛け、古い絵本を開いている。

桃髭

その昔――

蓮司

!?

桃髭

――ヨーロッパの西の果て、ポルトガルという国に、ひとりの若い優秀な船乗り

がいました。

蓮司

？

桃髭

ポルトガルの船乗り達は、インド洋や東南アジア周辺の海を旅しては、当時ヨーロッパでは大変貴重だった香辛料を国に持って帰って来たり、途中立ち寄った島の原住民を奴隷にして連れて帰ったりしました。若者の航海の腕は確かでしたが、あまり奴隷狩りには参加しなかったので、幾ら頑張っても功績を認めてもらえませんでした。

蓮司

誰？

桃髭

自分の船を持つことも許されず、代わりに東南アジアから連れて帰ったエンリケという奴隷を与えられて召使いにしました。…若者はずっと考えていました。アフリカを迂回してインドを越え、東洋へ行くのは遠過ぎる。でも、もし世界が丸いというのが本当なら、コロンブスの見つけた新大陸の更に向こうへ進めば、そう反対回りでアジアに辿り着くはず、それは今のルートよりきつと近道に違いない。

蓮司

その本…。

桃髭

若者は国の偉い人達に出航許可を貰いに行きました。でも、国中の誰も認めてはくれません。そこで若者は隣の国に行きスペインの国王にお願いに行き、認めてもらいました。成功すれば英雄。ヒデオと書いて英雄。若者は妻と子供を残して、危険な旅に出る決意をしました。

蓮司

ここ、何処？ ……わ！

木の軋む音、蓮司、体勢を崩す。

心地よさそうに風を感じて目を閉じている桃髭。

蓮司

……船？

状況が掴めない蓮司。頭を掻きむしる。

桃髭

…ようやく目が覚めましたか。香芝蓮司さん。

蓮司

…誰？ …あのこれって何ですか？

桃髭

……。

船の軋み。体勢を崩す蓮司。

蓮司

……船？ 何で？

本を閉じる桃髭。

桃髭

？

蓮司

……だって俺、家にいたのに。飯食ってて……（頭痛）！

香芝家食卓。木箱は食卓となり、父の薫と母の葉子、パンダの着ぐるみが突然それを囲んでいる。但し時間が止まっているので、三人は卓袱台を囲んで静止画像の如く動かない。蓮司が母の目の前で手を振るも反応はなし。食卓の空席にスポットライト。桃髭に手振りで着席を促され、訝しがりつつも着席する蓮司。同時に、食卓は時間の概念を取り戻す。時計の振り子の音。

桃髭はいつの間にかいなくなっている。

薫 そんなわけだ、蓮司。

蓮司 ……。

薫 おまえに相談せずに決めたことは、悪いと思っている。

蓮司 意味がわかんないんだけど。

薫 ……無理もない。

葉子 そりゃ、いきなりお父さんが脱サラするなんて言えばね。

蓮司 いや、そこじゃなくて。

薫 僕だって、自分が脱サラするなんて思ってもみなかったよ。

蓮司 それはいいよ。脱サラはいいよ。

薫 ……。

蓮司 どういう意味だよ。脱サラして海賊になるって。

問。

薫 ……母さんお茶。

蓮司 答えてよ。

薫 詳しいことは海に出てから話すが――

蓮司 今話してよ！

薫 (溜息) ……。最初に脱サラを意識したのは――

蓮司 「海賊」の方を聞いてんの！

薫 蓮司、わからないことがあれば聞きなさい。

蓮司 だから聞いてんだよ！ 何なんだよ海賊って！

葉子 船を使って他の船や沿岸の町を襲撃して――

蓮司 そういうこと聞いてるんじゃないよ！ 何で海賊になるなんて言い出したのかっ

て聞いてるんだよ！ え、何なのこれ？ 何の冗談？

薫 冗談でこんなこと言うわけないだろ。

蓮司 つまんねえ冗談にしか聞こえないんだよ！

葉子 蓮司が生まれてからお父さん、すっかり面白くなくなったの。

蓮司 俺のせいみたいに言うなよ。

葉子 今日ね、会社でお別れ会してくれたんだって。

薫 ……。



蓮司 ……俺はどうなるんだよ。

薫 (ぼそ) どうって……。蛙の子は蛙っていうか。

蓮司 どういうこと!? 俺、やらねえよ!

葉子 ナマズの孫じゃないっていうか。

蓮司 あのさあ、頭に浮かんだこと全部口するのやめてくれない?

薫 決まったことだから。

蓮司 勝手に決めんなよ!

薫 もう届も出したし。

蓮司 何? 届けて。

葉子 届も出したし。

蓮司 何処に!?

薫 頭金も払ったし。

蓮司 だから何、頭金って!? ええ? 会社辞めてどうするんだよ。俺、来年受験だよ?

薫 何処の世界に受験を心配する海賊がいるんだ。

蓮司 何処の世界に受験控えた息子を海賊にする親がいるんだよ! 父さんにはわかん

薫  
ないんだよ。今がどれだけ大事な時期か――  
あれは、俺が高校三年の時だった。  
蓮司 話聞けよ！

夕日、放課後のチャイム。

薫  
母さんお茶。  
蓮司 何か始まるんじゃないのかよ！

高田、凄く何の部活かわからない格好で登場。

高田  
香芝、部活辞めるって本当か？  
蓮司 何部！？

薫  
高田。俺が抜けても、みんなで証明してくれ。地球は丸かったと。  
蓮司 ……丸いよ。

高田、素になって退場。

蓮司 終わるかよ！ ったく――

薫 何考えてんだ。

蓮司 俺の台詞だよ！ 湧いてんじゃねえの？

薫 お、親に向かって湧いてるとは何だ！

葉子、タイミングよくラジカセの再生ボタンを押す。食卓を引つ繰り返す音が流れ、薫、それに合わせてゼスチュア。葉子、テープを巻き戻して停止。

蓮司 何それ。

間。

薫 大学ってお前何処に行くつもりだったんだ。

蓮司 早稲田。

薫 何処の！

蓮司 は？

薫 蓮司座りなさい。

蓮司 座ってるよ。

薫 いいからもっと座れ。

蓮司 もっと!?

薫 大体蓮司、どうして大学なんか行こうと思うんだ。みんなが行くからか。

蓮司 どうだっていいだろ。

薫 自堕落で破廉恥なキャンパスライフに憧れてるだけじゃないのか。

蓮司 違うよ！

薫 そもそも早稲田には海賊学科があるのか。

蓮司 ねえよ、んなもん！ 何勉強すんだよ、そんな学科。え？ 海賊原論Aとか――

薫 母さんお茶。

蓮司 さらっとシカトすんなよ！ つーか、さっきから飲み過ぎなんだよ！ 何で俺の時だけ自分で決めさせてくれない訳？ 菜穂姉だってマミ姉だってやりたいよう

にやってるじゃねえか。

薫 マミだって、真剣に考えてるんだ。(パンダに) なあ。

パンダ ……。

葉子 とにかく船に乗っていれば、そのうち海賊になるから。

蓮司 ならねえよ！

薫 船に乗って、宝島を探したいとか、そういう人としての感情が蓮司にはないのか。

蓮司 ねえよ！ ふざけんなよ！

葉子 蓮司の血は何色？

蓮司 ないもん探しても意味ないだろ！ 大体、船もないのに何が海賊だよ。

薫 船は手配済みだ。父さんの古い友人が貸してくれることになった。蓮司、おまえひとりのわがままを聞くわけにはいかないんだ。

蓮司 だったらまず菜穂姉に言えよ。俺にとにかく言う前に菜穂姉に言うべきことがあるだろうが。全然家にも帰って来ないで、やばそうな奴とばっか付き合ってるし。何で俺だけそんなわけわからないことに付き合わなきゃいけないんだよ。

薫 おまえが長男だからだ。

蓮司 何だよそれ。

葉子 解ったから、きりのいいところでご飯済ませちゃって下さいな。

薫 母さんそんなサザエサニツクな言い方しないでいいだろ。

蓮司 新しい言葉作んなよ。

葉子 味噌汁冷めるでしよ。

薫 味噌汁って母さん、我々は海賊なんだよ。

葉子 味噌汁はアサリなんですよ。

薫 見たらわかるよアサリだよタニシじゃないよ。

葉子 タニシな訳ないでしょ。それともタニシの方がよかったんですか。

薫 タニシの味噌汁なんて誰が飲みたいものか。

葉子 タニシの何がわかるんですか。

薫 わかんないけどさ。

蓮司 どうでもいいよタニシとかアサリとか！

葉子 ……蓮司は、大学で何を勉強するつもりだったの。

蓮司 え？ 哲学とか。

薫 哲学だと？ あんな非生産的な――

蓮司 海賊が言うな！

葉子 じゃ、ご飯片付けます。

薫 待ちなさいよ母さん。誰も食べないとは言っていないだろ。

葉子 なら、さっさと食べて下さいな。香芝君もほら。

蓮司 何で苗字で呼ぶんだよ。

パンダ、新聞を読んでいる。

蓮司 あの子……。

薫 母さん、今日のご飯は味噌汁だけですか。

葉子 だって、お金ないから。

薫 退職金があるだろ。

葉子 だから頭金で全部飛びましたよ。

蓮司 何やってんの？

薫 かのマリーアントワネットがその日食うのもままならない民衆に向かって何て

言ったか知ってるか。パンがなけりやケーキを食べればいいじゃない。

葉子 その人洋食が好きなのね。

薫 フランスの人だよ。

蓮司 なあ、まだ話……。

葉子 フランス人なの？ 日本語上手ね。

薫 フランス語で言ったんだ。

葉子 貴方、フランス語できるんですか。

薫 僕はでんきよ。

葉子 でどうしたんです？ そのマリーさんとワネットさんは。

薫 二人になっちゃったよ。論点ズルムケだよ。海賊の食事が味噌汁だけって、ちよつとシュールじゃないか？

葉子 家計に余裕がないんです。

蓮司 家のローンもあるんじゃない……。

薫 どうする蓮司。

蓮司 こっちの台詞だよ。本当にどうすんの？ 仕事もしねえで。失業保険貰うとかし



て……。

薫  
貰えないんだ。

蓮司  
何で？

薫  
仕事決まってるから。

蓮司  
そ……。それなら……。

薫  
暴レル関係。

蓮司、薫に突っかかる。パンダ、割って入り、蓮司の肩を叩いて宥め、座らせる。

蓮司  
何だよその遠い目は！

薫  
いいか蓮司、譬え血の繋がった親子でも僕は船長だ。船長の言葉は絶対だ！僕はマゼランになる！

蓮司  
なるってどういう意味？ マゼランって昔の人だろ！それにマゼランって海賊じゃないだろ！

葉子  
じゃあ母さんはプリキュアになる。

蓮司  
じゃあって何？ 言った者勝ち？ 何なんだよ二人して！ 大体、船長って何？

免許もないくせに。

薫  
煩いよ二代目。

蓮司  
継がねえよ！ 痛。(椅子に) 釘出てんじゃねえか。

薫  
ああ釘が出てたから直しておいた。

蓮司  
余計酷くなってるだろ。父さんが修理するといつもこうだよな。

間。

葉子  
蓮司が船長の椅子を狙ってますよ。

薫  
威勢がいいな。

蓮司  
何言ってるの？

薫  
母さん、このアサリ足が生えてるぞ！

蓮司、味噌汁を吹き出す。

葉子  
あら嫌だ。魚松うおまつさんたらそそっかしい。

薫 そそっかしいで済ますのか？ アサリに足が生えててそそっかしいで済ますのか。

そういう次元じゃないだろ。

葉子 お金が足りなくてまけてもらったの。こんな所で足が出るなんて。

薫 巧いな。

蓮司 あのさあ。

薫 母さんこれ、絶対アサリじゃないよ。

葉子 嫌なら食べなくていいですよ。

薫 食べるよ。

蓮司 食べるのかよ！ ああもう！ おかしいよ。あんたら。

薫 あんたら？ 蓮司は親に向かってあんたらなんて言葉遣うのか！

薫、発作。

蓮司 ホントさ、付き合ってる暇ねえから。海賊ごっこか何か知らないけど、そういう

のはさ……。

蓮司、急に睡魔が襲い、その場に突っ伏す。パンダも何故かそれを確認してから気を失う。葉子、蓮司の頬を叩く。蓮司反応せず。

葉子  
あなた。

薫  
海は死にますかーっ！

豪快な波音。雨合羽に身を包む船乗りが次々登場。全員まるで幽霊船の軋む音のように呻っている。

中央奥よりパンダ登場。パンダ、食卓の上に立ち、颯爽と頭を脱ぐ。凜としたマミの顔が現れる。

マミ

(まくし立てて) 記憶の長嶋記録の王さん、パタパタママにサンデーパ、フーテン寅さん風船おじさん、借金地獄ノリノリ天国、酷いよ姉さんお黙リカツオ、夜霧よ今夜はブギーバック、昨日の味方は京野きやうのことみ、明日は明日の風邪をひく、酒と泪なみだと男と男、送り狼出迎えパンダ、飲んでよぎるは悲しい記憶、何の騒ぎだ授業中だぞ、先生おしっこ止まりません、海は広いな大きいな、月は昇るし尾は東、過去も未来も陸おかに残し、いざ海原に漕ぎ出ん。短き生涯、何で綴ると尋ねられたら、迷わず私はこう答えよう。人で綴ると！ 人で綴ると！ 変な日記！

空間を引き裂くような落雷の音。全員一瞬にして、嵐の中を彷徨う船の乗組員。マミ、船首像の如く前方を見つめ続ける。

葉子

メーデーメーデー！ 救助を要請。現在位置は……。

薫

手の開いてる奴は船尾の修復に当たれ！ 命綱を忘れるな！

\*

おー！

高田

くそ。波が高い。転覆するぞ。

蓮司

前方に大渦発見！ 船橋！<sup>ブリッジ</sup> 応答せよ！ 前方に大渦！

薫

回避イー！ 取り舵一杯！

斑鳩

聞こえない！

\*

取り舵一杯！

蓮司

駄目だ！ 潮の方が速い！

葉子

メーデーメーデー！ 全然応答がないわ。

薫

いいから呼び続けろ！ 全員飛ばされてないか！

\*

おお！

高田 潮の流れが変わった！

薫 面舵一杯！

斑鳩 駄目だ回頭不能！

薫 面舵一杯一杯！

高田 (俺に) 代われ！

薫 突っ込むぞ！

大きな衝撃。全員体勢を崩しワーキヤー言っている。

蓮司 <sup>ブリッジ</sup> 船橋！ 岸壁が迫ってる！

三郷 今度こそ本物の海峡だ。

薫 大陸の果てだ。地図は間違ってたなかった。全員！ ここが正念場だ。何としてでも持ち応えよ！

\* おー！

斑鳩 船長、この海峡に名前をつける。俺達が見つけた証に。

薫 よし！ じゃあ、チンコ！

斑鳩 海峡ってつけるよ！

薫 海峡チンコ！

斑鳩 何で前に付けてんだよ！ 普通なんとか海峡って――

高田 その前にチンコ指摘しろよ！

三郷 波が変わった！

薫 構わん！ このまま海峡を越えて大陸の向こうへ出る！ 真実を確かめるんだ！

帆を張れ！

高田 帆を張れ！

\* 帆を張れ！

囁々たる波音の中、全員走り去り、蓮司ひとりが取り残される。

蓮司の背後に蓮司の姉菜穂子が立っている。菜穂子、キャバ嬢風服装。

菜穂子 蓮司。

蓮司 菜穂姉？

菜穂子 ……状況解る？

蓮司 ……これって、船？

菜穂子 うん。

蓮司 ……みんな乗ってるの？

菜穂子 母さんとマミちゃんと、あと知らない人が何人か乗ってる。

蓮司 親父は？

菜穂子 わからない。見てない。

蓮司 家で晩飯食ってたらさ、親父がわけわかんないこと言い出してさ。

菜穂子 ？

蓮司 海賊になるとか言い出して。

菜穂子 海賊？ 何それ。

蓮司 知らないよ。……それで会社辞めたって。

菜穂子 辞めたの？ 父さんが言ってたの？

蓮司 ふざけてんだろ。……菜穂姉は何でここに？

菜穂子 私も無理やり連れて来られた。

蓮司 親父に？



菜穂子 ううん。父さんの知り合いだと思う。じゃあ蓮司は父さん達の側ってわけじゃな

いんだ。

蓮司 は？

菜穂子 だってそんな格好してるから。

蓮司は髑髏をあしらったシャツを着ている。

蓮司 違うよ。たまたま（そういう服なだけ）だよ。姉ちゃんこそ何だよその格好。

菜穂子はキャバ嬢。

菜穂子 仕事終わって店出たところで無理やり車に押し込まれたから。

蓮司 店って、おっさんと酒飲むような？

菜穂子 そんな感じ。

蓮司 菜穂姉、今、何処にいるの？

菜穂子 店の近くにマンション借りてる。

蓮司 そっか。

菜穂子 ……マミちゃん元氣してた？

蓮司 菜穂姉出てっからあんまり。

菜穂子 そっか。……蓮司も災難だね。受験で忙しい時期なんですよ。

蓮司 親父、珍しく早い時間に家にいると思ったら。冗談じゃねえよ。いい加減にしてくれよな。母さん、さっきから何やってんだよ。

葉子、さっきからモップがけをしていた。

葉子 ……あ、蓮ちゃん。

蓮司 遅いよ。

葉子 これどういうこと？

蓮司 こっちの台詞だよ！ 何、味噌汁に睡眠薬なんか混ぜてんだよ！ 俺本当にこんなことしてる場合じゃないんだけど。

葉子 ……。

蓮司 ちよっと聞いてんの？ う……。

蓮司

……うっ。

蓮司、慌ててデッキへ走り、手すりに掴まって、海に向かって嘔吐。たまたま通りがかった斑鳩、蓮司の背中をさする。

斑鳩

ようし。ようし。ようし海賊だ。ようし。ようし海賊だ。

斑鳩を振り払う蓮司。

蓮司

誰だよ！

斑鳩

君達のお父さんの高校時代の同級生の斑鳩義輝だ。赤髭って呼んでくれ。

髭は生えていない。

蓮司

は？

白衣を着た女装の船医、三郷登場。

三郷 起きた？

葉子 うん。

三郷 はい。

三郷、蓮司に薬を渡す。

蓮司 何これ？

三郷 酔い止め。

蓮司 誰？

葉子 三郷さん。

三郷 君達のお父さんの高校の同級生。

蓮司にひつつきすぎな三郷。

菜穂子 あんたらだよな。私を拉致ったの。

斑鳩 …… だったら？

菜穂子 船を戻して。

三郷、手で天狗。

菜穂子 何！

菜穂子 …… 何なんだよ。あんたら。

斑鳩 取りあえず船長に代わって状況を説明しておく。この船が現在位置を見失って半日になるけど……。

菜穂子 ちよ、遭難してんの？

斑鳩 縁起でもないこと言うな。周りにとってちょっと、行方不明になってるだけだ。

菜穂子 だからそれを遭難って言っんでしょ。

斑鳩 だってわかんないんだよ！

蓮司 何でわかんないんだよ。何で何処かわかんないのにずっと走ってんだよ！

斑鳩 海だよ！

蓮司 だから海の何処だよ！ 何処に進んでんだよ！

斑鳩 こっちが聞きたいよ。

菜穂子 無責任なこと言わないでよ！

斑鳩 取りあえず前には進んでる。

蓮司 わからないなら進まないで、戻れよ！　せめて止まれよ！　バカじゃねえの？

蓮司 遭難してんだろ、だったらやるべきことがあるだろ！

斑鳩 そうだ。まず最初にホントに遭難してるかどうか確認することから。

蓮司 だからしてんでしょ！

斑鳩 クルー全員役割を果たさないと動かないのが帆船なんだ。

蓮司 クルーじゃねえよ。

斑三 乗ってんだろ！

蓮司 乗せたんだろ！　拉致って無理矢理乗せたんだろ！　大体、これの何処が海賊な

んだよ！

菜穂子 あんたが一番海賊っぽいんだけど。

水に濡れたらしく、ズボンの裾をたくし上げている蓮司。頭に巻いたバンダナの後頭部に髑髏マーク（できればここで初めて見える）。

蓮司 煩いな！ いいから、遭難したなら早く救助信号出せよ！

斑鳩 仮にも海賊がそんな恥ずかしい信号出せるか！

蓮司 そんなこと言ってる場合じゃないだろ。

斑鳩 そもそもそんな信号ないし。

蓮司 なくてこんな海出ちゃ駄目だろうが！

斑鳩 だって、こんなの作ったことないもん！ そもそもこいつを海に浮かべるつもり

なんてなかったんだよ。

蓮司 海に浮かべない船って何だよ。

斑鳩 観賞用だよ。

蓮司 観賞用の船って何！

斑鳩 ボトルシップだよ！

蓮司 こんなでかいボトルシップがあるわけないだろ！ 仮に百歩譲って――

斑三 何、百歩譲ってんだよ！

蓮司 はあ!?

蓮司 (無視して) ホントにボトルシップだったとしてどうやって船をボトルの中から出

したんだよ。

斑鳩 頑張つてに決まってるだろ！

蓮司 だからどう頑張つて！

斑鳩 割ったんだよ！

三郷 派手な進水式だった。

蓮司 さっきから聞いてたら、何なんですか、え？ これの何処が海賊ですか。大体、海

賊になって何がしたいんですか。

三郷 その質問、そっくりそのまま返すわ。

蓮司 意味わからねえよ！ 俺は全くなりたくないんだよ。ちょっとお！

蓮司、背後にべったりひっついてる三郷を振りほどく。斑鳩、手すりから喫水線（海面が船のどの辺の高さまできてるか）を調べる。

斑鳩 うわ、喫水線上がってる。

菜穂子 同窓会やるならあんた達だけで勝手にやってよ。何で私らまで。何の真似か知ら



斑鳩  
ないけどさあ、こっちは店に行かなきゃいけないの。早く戻ってくんない？  
そう言うなよ。同じ水商売だろ。

菜穂子も自分の衣服のポケットを調べるが、携帯電話はない。

菜穂子 父さんは何処？ 父さんと話したい。

\*

菜穂子 何処だって言ってるの！

菜穂子、桃髭、去る。

パンダの着ぐるみを着たマミ登場。空気が止まる。その辺を徘徊。振り返って、みんなの方を見る  
パンダ。

\*

三郷 あれ、マミちゃん？

葉子 うん。

マミ ……。

三郷 もしかして苦しいんじゃない？

斑鳩 え？

三郷 ほら。

斑鳩、パンダの頭を脱がせる。

マミ 僕はベジテのアスベル……。助けてくれてありがとう。

斑鳩 ……え、あ、うん。ええ？

三郷 (ヒソ) ちょっと。

マミ 驚くのは当たり前さ。僕らは腐海の底にいるんだよ。

斑鳩 うん。そうだね。

斑鳩 マミちゃん。ここは危ないから部屋に戻ろうか。

マミ ……。

斑鳩 マミちゃ痛い！

どつかれている。

斑鳩 ……あの？

葉子 今はアスベルって呼んでやって下さい。

斑鳩 はあ。……アスベル君？

マミ すまなかった。妹を看取ってくれた人を僕は殺してしまうところだった。

斑鳩 うん。大丈夫。……アスベル君。部屋に戻ろうか。嵐が来るから。

マミ だとしたら僕らは滅びるしかなさそうだ。

斑鳩 うん。そんなことないよ。

マミ ……。

\* (ヒソ) どうすんの？

\* (ヒソ) そんなこと言ったって。

三郷 船長呼んで来る。

\* うん。

マミ 動くな。その子を行かせてやれ。

\* ……。

マミ (アシタカで) その子は人間だぞ！

\* (ヒソ) 変わったわよ。

\* (ヒソ) 出展が変わった。

\* (ヒソ) どうしょ？

マミ、去る。

高田 何なんだ。

斑鳩 マミちゃんだよ。

高田 わかってるよ。

蓮司 これの何処が海賊なんだよ？ 海賊になって何がしたいんだよ！

桃髭登場。

桃髭 宝島を探すのです。

蓮司 ? あんた、さっきの。

桃髭

どうぞ、社長。場は適度に温まっております。

高田、重厚なイントロに乗せて登場。白い髯髭のプリントが入った黒のベスト、不自然にずれた頭髪。周囲の人間は気圧されている。

高田

はじめまして。

蓮司

？

高田

まずは無事に出発できましたことを心よりお喜び申し上げます。「宝島を探す」これが我々の依頼主、香芝様の掲げたミッションでございます。申し遅れましたが、私は香芝様の目的達成のお手伝いをするためにやって参りましたコンサルタントの高田と申します。よろしくお願いします。

蓮司

コンサルタント？ 海賊の？

高田

それと秘書の桃髭です。

蓮司

桃？ 髭？ え？

高田

というわけではらく皆様とこの船で一緒に過ごさせていただきます。が、基本的には我々は何もいたしません。あなた方でこの船を動かしていただきます。我々が

するのは、あなたがたの監視、それくらいです。さて、事前にある程度の説明は受けているかと思いますが、皆様には必ず守っていただかなければならない決まりがございます。

桃髭  
(一枚の紙を出し) 船長から皆様の役割を決めた表を預かっております。舵取りは斑鳩様。船医は三郷様。香芝葉子様は厨房長。事務長は私桃髭が。残りの方は甲板手です。全員朝の五時に起床。宿直は交代制で交代時刻の五分前には必ず所定の位置に着くこと。その他詳細にわたって書いてありますので後で必ずご確認ください。それと、皆様の携帯電話等連絡手段となるものは全て没収させていただきます。下船の際までこちらで預からせていただきます。

高田  
一人でも足引っ張る人間がいたら、それは乗組員全員の命取りになりかねませんからね。それにしても、いい船ですね、これ。

斑鳩  
ええ、手作りです。

高田  
特に船長室のあの羅針盤なんて。あれも手作りですか？

斑鳩  
十六世紀のものを忠実に再現しました。

高田  
精巧な作りでした。今となってはあれが模型なのが残念で仕方がないですね。

蓮司 残念すぎるよ！ それで遭難してんじゃねえか。

葉子 あ、の羅針盤を見てる人もリアルに作ってあって。

蓮司 要らないだろ！ 捨てろよ！

菜穂子 こっちの羅針盤（脳）も模型じゃねえの？

高田 ……。

菜穂子 何？

高田 そして一番重要なことですが、今後船長の命令には絶対服従をお願いします。

船の上では船長の言葉は絶対です。当然我々も従います。たとえご子息ご令嬢であろようと、これからは船長と船員。船長に逆らう人間は容赦なく海へ放り投げますので、覚悟しておいて下さい。ま、難しく考えることはありません。船長の指示に従って、皆様協力して船を動かせばいいだけです。では解散。

高田、桃髭、去る。

夜。動きやすい格好になった菜穂子、イライラしながら歩いて来る。カウンターに酒を見つけ、腐ってないか確認して酒を呷る。三郷登場。

三郷 何も見えない夜の海。光のない世界。波の音と、揺れと、風に含まれる潮と湿気と、

昼間見た映像の記憶でしか確認できない海。空との境界もわからない、ただ目の前の全てが闇。そんな闇が一望できる、お風呂が湧いたよ。

菜穂子 『お風呂が湧いた』だけでいいです。……こんなことして、何の意味があんの？

三郷 意味もなく、こんなことしないわよ。

菜穂子 だったら目的を聞かせて。

三郷 この海の何処かに菜穂子ちゃんの曾おじいちゃんの隠した宝が眠ってる…。

三郷、バントのサイン。

菜穂子 ？

三郷 香芝のお母さんのお父さんが軍に没収される前に海に棄てたって記録が出てきて…。



三郷、バントのサイン。

菜穂子 そうなの？

三郷 相当な価値があるらしいわよ。

三郷、バントのサイン。

菜穂子 癖？

三郷 え？

菜穂子 その手。

三郷 ああ、緊張すると出ちゃうの。

三郷、バントのサイン。

三郷 ……家に全然帰ってなかったんだって？

菜穂子 何なの、あんたら。どうして父さんに協力する訳？ 父さんの何？

三郷 同じ高校だったの。みんな。

菜穂子 ……。

三郷 ずっと会ってなかった。昔の私を知ってる人とは会わないようにしてた。それがねえ……。

菜穂子 ？

三郷 ……私と君のお父さんを引き合わせたのはね、菜穂子ちゃん、君なのよ。

菜穂子 私が？

三郷、菜穂子に名刺渡す。

菜穂子 聖ボキール医大附属病院……。

三郷 菜穂ちゃん、うちの病院来たことあるよね。

菜穂子 え？

三郷、席につく。

三郷 見ないうちに、香芝、オヤジになっててびっくりした。

三郷、硬直。

菜穂子 え？ 何？

三郷 ……。

菜穂子 また？

ウイイイ……ンガシン！（昇降機の音）

三郷の回想。酒場。バーカウンターの中にバーテンに扮し、シェイカーを振るバーテンダー（斑鳩）がフリーズした状態でせり上がって来る。客1（高田）、客2（蓮司）が硬直した状態でいつの間にかいる。菜穂子、三郷の向かいの席に座る。時は動かず。何度か腰を浮かして座り直す、時は動かず。最初の回想の時に座った木箱が明るくなる。菜穂子、木箱に乗って着席。瞬間、時間とジャズが流れる。菜穂子、客役を兼ねて傍観。

薫登場。三郷の回想ゆえ、現実よりもオヤジぶりが誇張されている。

三郷 香芝。

薫  
おう。

菜穂子  
そこまでオヤジじゃねえよ！

薫  
ここか、釈由美子が集まる店って。

菜穂子  
集まるって何？

薫  
悪いな、遅れて。

薫、三郷の向かいの席につき、ハゲヅラを取り、ちよび髭を取る。

三郷  
ううん、私も今来たところ。

三郷、バントのサイン。

薫  
嘘つけ。待ったんだろ。いまだに治ってないんだな。嘘つく時にバントのサイン出す癖。

菜穂子  
さっきの全部嘘かよ！「てへ」じゃねえよ！

三郷  
着替える時間もなかったの？ 別の日でもよかったのに。

薫 今日できることは明日に回さない主義だから。

三郷 なかったよね、そんな主義。

薫 しかし、おまえから来た年賀状に「せいが変わった」って書いてたのには笑ったよ。

三郷 「そっちの性かよ」って？

薫 ホント変わったな。いつから会ってないんだっけ？

三郷 最後に会ったの、部活の同窓会だったかな？ ほら、斑鳩が酔った勢いで背が伸

びた……。

薫 あったなあ。

三郷 香芝のどこの真ん中の子、何って言ったっけ？ イワシちゃん？

薫 菜穂子？

三郷 そうだ、菜穂子ちゃんだ。うちの病院に来てた。

薫 菜穂が？

聞いててイライラしている菜穂子。

三郷 菜穂ちゃんは私に気づかなかったみたいだけだね。ま、覚えてないのも無理はな

いか。最後に見た時、あの子ランドセルを背負ってた。

薫 ああ。

三郷 五、六個。

薫 ジャンケンの弱い子だった。しかし、菜穂子は何でお前の病院に？

三郷 うん、その話なんだけど。（バーテンダーに）マスター、お任せで何か作ってくれる？

バーテンダー 畏まりました。

薫 俺も同じ奴を。

バーテンダー 畏まりました。

三郷 ……菜穂子ちゃんって、今、大学生？

薫 いや、高校も中退して……。

三郷 そうなの？

薫 殆ど家にも帰って来てない。

菜穂子 ……。

薫 ホント、何考えてるのか解らん。小さい頃はホント可愛かったのに。天狗が大好きだったんだ。機嫌悪い時でもこう（手で天狗の鼻）やったら途端に機嫌良くなっ

て。

菜穂子（それか！ さっきの）

薫 「おっきくなったら天狗になる」なんて言ってた。

三郷 フフ……。

薫 ……ある意味成就したけどな。

菜穂子 ……。

薫 菜穂子、何処か悪いのか？

三郷 ううん。

薫 三郷って何科だったっけ？

三郷 循環器科よ。けど、来たのはうちの科じゃなくて。……産婦人科。

薫 ？

三郷 ……中絶したって。

菜穂子 ……。

薫 え？

三郷 ……。

薫 菜穂子が？

三郷 ホントは守秘義務があるから教えちゃ駄目んだけど。

薫 ……嘘だろ？

三郷 (首を横に振る) だったらサインが出てる。

薫 ……。

薫、髪を掻き繕る。菜穂子と蓮司と同じ仕事で。

三郷 父親は誰か解る？

薫 俺だ！

三郷 じゃなくて。

薫 いや解らん！

三郷 今回が初めてじゃないみたい。香芝に言うべきか迷ったんだけど。

凄い形相の薫。



客1 何で、財布に二十円しかねえんだよ。

客2 やっべ。

客1 いいから早くおろして来いよ。

客2 ええ？

客1 いいから早くおろして来いよ。

客2 ええ？

客1 いいから早くおろして来いよ。

客2 ええ？

更に形相が酷くなる薫。

三郷 香芝？ 香芝？ 香芝？ 香芝？

薫 え？ ああ。

三郷 場所変えよっか。

薫と、三郷、席を入れ替わる。

薫 何をやってるんだ。……あいつ、ひとりで病院に？

三郷 多分。丁度受付で用事してる時に名前呼ばれてたから気づいて。香芝って珍しい

苗字だから。

薫 ……。

三郷 夜の仕事してるみたいな格好してた。ちょうどあんな……。

三郷、菜穂子を見る。

薫 うちの菜穂子をあんな虫みたいな子と一緒にするな。

菜穂子 ……一緒なんだけど。

バーテンダー、丁寧かつ手際よくでショートカクテルを2つ完成させ、薫と三郷に出す。

バーテン 鶏ガラ醤油の中華スープです。

三郷・薫 ……。

本当に中華スープ。訝しそうに匂いや味を確かめる二人。

三郷、うどんをむさぼる。

三郷 放っておいたら繰り返すよ？

薫 ？

三郷 あの子。……菜穂子ちゃんがどんな気持ちで中絶したか、私には、わからない。わかり得ない。

間。

三郷 菜穂子ちゃんと話してみたら？

薫 何て言うんだよ。……そうじゃなくてもどうやって話し掛けたらいいかわからないのに……。自分の子なのにな。

三郷 ……。

薫 ……一緒じゃねえか。

三郷 ……何が？

薫 ……三郷、俺の親爺見たことあるよな？

三郷 え？

薫 仕事は長続きしないでブラブラして、お袋に働かせて、おまけに酒飲んで暴れて。

……お袋も俺ら兄弟もズタズタだった。あんな親にだけはなりたくなくて、それで、家族のためにがむしゃらにやってきたのに。おんなじように家庭崩壊させちゃってさ。

三郷 今も許せないの？ 親爺さんのこと。

薫 許す……。あいつのせいでお袋の人生は減茶苦茶になったんだ。

三郷 ……。

薫 ……おまえこそどうなんだよ？ 親父さんに許してもらったのか？

三郷 ……（首を横に振って）一昨年死んだ……。

薫 ……。

三郷 最期に私のこと呼んでたって。けど、オペがあって抜けられなくて……。

薫 ……。

三郷 って言い訳してる。自分に。……駆けつけようと思えば駆けつけられたもん。

マミ、登場。回想だとわからずに出てきた感じで。回想の邪魔をしないよう、菜穂子にその辺に座らされる。

三郷 香芝は、まだ取り戻せるじゃん……。

薫 ……。

三郷 香芝さえ本気なら。

薫 本気。……どうすれば取り戻せる？

三郷 家族と向き合う時間を作りなさい……。

薫 本気出せば間に合うか？

薫 ふう。だったら奪えばいいか。

三郷 何を？

薫 家族以外ものを。

三郷　だからどうやって？

笑う三郷。

薫　斑鳩の連絡先わかるか？

三郷　ホームページがあるからメールで連絡はつくけど。

薫　うん。

回想終了。

三郷　という訳なの。

菜穂子　長いよ！

三郷　あとは菜穂子ちゃんの知ってる通り。

菜穂子　割愛できるとこいっぱいあったよね。

三郷　誰か相談――

バーテン　お会計、三千円になります。

バーテンダー（斑鳩） だけ回想が終わっていない。

三郷 え？

バーテン 三千円になります。

三郷、財布から札を出して支払う。

バーテン 四千円からお預かりします。（レジ）千円のお返しです。ありがとうございました。

バーテンダー、漸く消える。

三郷 誰か相談できる人いなかったの？ お母さんとか……。

菜穂子 何が？

三郷 身近な女性の先輩なんだし。

菜穂子 毎日、隠れて酒飲んでばっかの人に聞いてもらいたくもないし。関係ないじゃん。

話したところでどうせ、臭い息吐きながら説教たれるのがオチ。誰か他人に話すかも知れないし。

まさか。

三郷

マミ、ズボンの中を確かめている。

菜穂子 何探してるの？

マミ ちんこ。

菜穂子 最初からないだろ、そんなもん。

マミ 最初からない……。

菜穂子 ……母さん、依存症の会に通ってる。

三郷 聞いた。『君は悪くない悪いのはお酒なんだの会』でしょ。

マミ 菜穂ちゃんのを貸して。

菜穂子 ないって！ あっても貸せない！

マミ あっても貸せない……。

菜穂子 ……同じような人達相手に、家庭や職場の悩みを告白し合うの包み隠さず。旦那



が単身赴任で孤独に勝てないとか、息子の嫁がどうしても受け容れられないとか、プロ野球引退して日雇いで働いてるけど、野球への未練を断ち切れないで息子にスパルタを強いてしまうとか。酒に頼る原因になってる環境から解決するのが方針だとか何とか言ってる。

マミ

その辺売ってないかな。

菜穂子

自分の不幸を聞いてほしい人と、他人の不幸を同情したがる人が集まってんの。自分の娘がさ、子供堕ろしたなんて格好のネタじゃん。自分のことで一杯一杯なんだよあの人。小さい頃からずっと見てきた。

マミ

買い置きしときゃよかったな。

菜穂子

……ひとりで勝手にイライラしては、マミちゃん叱って。ううん叱ってんじゃない。当たってんの。溜まったストレスをただぶつけてんの。

マミ

隠してない？

菜穂子

だから最初からないって！

マミ

だから最初からないって……。

菜穂子

……ちっちゃいマミちゃん相手に糞味噌になじって。だからマミ姉はこんな風に

なった！

菜穂子、マミを抱きながら、三郷を睨む。

マミ　ちんこ、どっか行っちゃった……。

三郷　一緒ね。

菜穂子　私、物陰で一部始終見てた。怖かった。怒られないようにしてた。マミ姉が壊れて、それであの人酒に走って。それから、掌返したみたくな大人しくなったけど。ホントあの人見てて思った。大人ってしょーもないなあって。

三郷　……菜穂ちゃんは知ってたの？

菜穂子　？

三郷　その……、マミちゃんが連れ子だったこと。

菜穂子　結婚式の写真にマミ姉が写ってたから……。

三郷　そっか。

菜穂子　……親父が悪いんだよ。いつも仕事仕事仕事仕事……。ずっとマミ姉が虐待受けてたことに気づかないでさ。それが今更……。今更何がしたいの、海賊っ

て。中途半端にイカれちゃって。だったら死ぬまで働いてくれた方がよっぽど立派だったっーの。

三郷 父親を何だと思ってるの？

菜穂子 ……。

三郷 ……。

菜穂子 私のこと軽蔑してんでしょ？

三郷 してない。

三郷、サイン。

菜穂子 そんな嘘が下手でよく女になろうなんて思ったね。

三郷 ……。

菜穂子 とにかくとっととあの家出たかった。

マミ、海の方こうを凝視している。

マミ 菜穂ちゃん、ほら、戻ってきた……。

菜穂子 え？ 何？ 何が？

マミ さっき食った物が。オエエエ（嘔吐）。

菜穂子 わあ！ ちょっと待って。おっさん、バケツ。

三郷 おっさん？ え？ おっさん？

菜穂子 何でそんなに干渉すんの？

三郷 ……私も親に虐待された口だから。

三郷、バントのサインをして去る。

菜穂子 サイン出してんじゃねえよ！

葉子、登場。

蓮司 菜穂姉……。

マミ おええ。

菜穂子 ほら、こっち！

菜穂子、ママを引っ張って去る。

葉子 ……。

菜穂子が飲んだ後の酒を気にする葉子。

桃髭、置いてある絵本を手にして朗読し始める。

桃髭

……ポルトガルを離れ、一路南米へと辿り着いた若者率いる五艘の船は、そこから更に南へと向かいます。そこはまだ正確な地図さえもない場所。しかし若者は信じていました。どんな大陸も必ず終点は三角になって終わりがあると。船は進み、ある日若者の想像している場所に辿り着きました。一同は激しく喜びました。が、先へ進むと、それがただの大きな川だと解って、がっかりさせられました。船員達の中から、不満も出始めました。

いつの間にか葉子、三郷、斑鳩の四人がテーブルを囲んでトランプをしている。

\* おいしい！（トランプに對し）

三郷 まだあったんだね。

葉子 え？

三郷 それ（絵本）。香芝が持ってたのか。

高田 （札）繰った？

斑鳩 繰ったよ。

三郷 高校の時もよくやってたね、こうやって。

薫 ああ。

首に双眼鏡をぶら下げた蓮司が現れる。マミもついて来ている。

斑鳩 どうだった？ 見えたか？ 日付変更線。

蓮司 ねえよ！ んなもん。

斑鳩 マミちゃん、眠くないのか。

マミ お腹空いた。

蓮司 さっき食べただろ。

マミ さっき食べた。

香芝 しゃ！（札を並べる）

斑鳩 うああ。

斑鳩、席を立てて葵子が代わりにテーブルを囲む。高田、紙に勝敗を記録している。斑鳩、デッキへ。

斑鳩 マミちゃんってずっとこんな感じ？

蓮司 こんなって？

斑鳩 淡々としてるって言うか……。

蓮司 そうかな。……あ、でも菜穂姉がずっといるから、嬉しいみたいだけど。

斑鳩 そうなんだ。（わからない）……見てたら菜穂子ちゃんの方がお姉ちゃんみたいだよな。

蓮司 そんな風に思ったことないけど。

斑鳩 ……変わったな。

蓮司 何が？

斑鳩

蓮司

出航した頃は、何もかも気に入らないみたいにギャーギャー怒鳴って、文句言ってたけど。逆らったら飯抜きってゲームに意外と乗っかって来たっていうか。乗っかるも何も、それ従うしかないから。何処にも逃げられない船の上でさ、食いもん押さえて言わないで。船降りたら二度と親爺と一緒に行動しないから。

斑鳩、天を見上げる。

斑鳩

蓮司

斑鳩

そんなこと言って、本当はちょっと楽しいんだろ。

何処が。

凄いはら見て見て。ほらほら。

斑鳩に促されるまま天を見上げる蓮司。

斑鳩

蓮司

斑鳩

ここまで首が曲がる。

……。

海はいろんなことを教えてくれるなあ。



蓮司 ……。

マミ 蓮司君、海って何？

蓮司 目の前に広がってるだろ。マミ姉、海は平気なんだな。プールは見るのも嫌がるのに。

……なあ、波がだんだん高くなってるんだけど。

斑鳩 早稲田受けるつもりだったんだって？

蓮司 え？ ああ。

斑鳩 どうして早稲田？

蓮司 行きたい会社の社長が早稲田の哲学コースからばかり採ってて。

斑鳩 行きたいトコ？

蓮司 出版社。……別に興味ないでしょ。

間。

斑鳩 ああ、結婚したい。

蓮司 ……。

間。

斑鳩 ……俺ら同じ高校で演劇やってたんだ。

蓮司 今の何？

斑鳩 香芝、芝居で食いたいわってずっと言ってた。

蓮司 非生産的じゃねえか。……あの、ホントに男だったんですか？

斑鳩 三郷？ ホント変わったよ。全然あんな喋り方じゃなかったし。でよ、そんな中で香芝がさ、芝居しないかって誘ってきてさ。

蓮司 ふうん。

斑鳩 もう、昔のことだからよく覚えてないけど、香芝、マゼランやってたなあ。

蓮司 マゼラン？

斑鳩、薫、硬直。時計の音。時間が止まる。

蓮司 え？ 何これ？ ちょ、航海長？ ……ええ？

蓮司が所定の席に着くと時間が流れる。斑鳩の回想。高校の教室。

薫 (捲し立てて) だから要するにいわゆるだな。何だかんだ言って海って例えばさ、やつ

ぱりこいうもつとさ、凄いや俺とかお前とか。

斑鳩 (対抗して) 何がどうって訳じゃなく、ちよつと全くその辺がだからあれなんだろうな、

うな、凄いや俺とかお前とか。

蓮司 覚えてないなら回想に入らないで下さいよ！

薫と斑鳩、相槌。斑鳩と薫、急に芝居がかった低い声で喋り始める。

薫 確かに地図は間違っていた。

蓮司 ?

薫 だが、私の意志は変わらん。……副船長、まだ、この先なんだ。果てのないと思われていたアフリカにだって南の果て喜望峰<sup>きぼうほう</sup>があった。先へ進もう。

間。

蓮司

？

斑鳩

台詞。

蓮司

え？

斑鳩

台詞入れて来いって言っただろ。解ってんのか。大会本番まであと何日か。

蓮司

え？

演劇部の稽古中である。薫がマゼラン役、斑鳩が演出家。蓮司はどうやら薫達の後輩で、相手役らしい。マミもいつの間にか登場。斑鳩の横に座っている。

薫

斑鳩、時間が惜しい。

斑鳩

(蓮司に) いいから本持って。

高田、蓮司に台本(勝敗表)を渡す。

斑鳩

「船長、あんたは港を出る時」……。

蓮司

船長、あんたは港を出る時俺達に何て言ったか覚えてるか。

薫  
行くぜ。

斑鳩  
「何か言ったか？」

薫  
何か言ったか？

蓮司  
南には天国みたいな島がある、そう言った。だが実際はどうだ、南に来れば来る

ほど気温が下がってる。

薫  
冒険に予定外はつきものだ。

蓮司  
港を出て五ヶ月。どれだけ進んだ？ 船員達は皆、長旅で疲弊しきってる。海峡

と想像していたのが大きな川だと解ったあの時に、国に戻る決断をするべきだった。  
だが、あんたはそれを怠った。いいか船長。全ての命運はあんたひとりが握ってる。  
今はまだ少ない犠牲で済んでいるんだ。

斑鳩  
「済みきっているんだ。」

蓮司  
済みきっているんだ。己の名声と、二五〇人の命。どちらが大切な、よく考えるんだ。

あんたも国に結婚して間もない奥さんを待たせてるんだ。解るはずだ。

薫  
あるんだよ。この先に必ずあるんだよ。陸の切れ目が。この大地は丸い。永遠に  
続く大陸なんてものはありはしない。

蓮司

引く勇氣もある。

薫

ここまで来て、何の航路も見つけられずにおめおめと帰れるか。

マミ

うにうに。

薫

うにうにと帰れるか。俺は認められたんだよ。

蓮司

危険なんだよ。

薫

臆すな、副船長。みんな命は捨てる覚悟で港を出たはずだ。結果を生むためには、相応のリスクが必要なんだよ。必ず真実は最後に笑ってくれる。この先に海峡があることは確実なことなんだ。確実に近づいてるんだ。

薫、ないマントを翻して去る。マミも後に続く。

蓮司

……破滅にな。

学生時代の三郷、葉子登場。斑鳩は食卓の回想の、何部かわからない格好で。時代は一九七五年。「港のヨコ・ヨコハマ・ヨコスカ」な年。

三郷 桜井さん。

葉子 香芝君、今、停学になったら卒業できないんだよ。どうして香芝君ひとりに被らせるの？

斑鳩 俺は卒業できないと困る。

三郷 僕も……。そんなことしたら、親が許さない。

葉子 いつも香芝君に助けてもらっておきながら。こんな時に黙って見過ごすんだね……。

斑鳩 誘ったのあいっだ。この学校で自分ひとり落ちてくならいざ知らず、他の生徒も巻き添えにして、勝手に演劇グループを作った。香芝はいいよ。どうせその辺の大学に行くんだろ。俺らは今、目をつけられるわけにいかないんだ。今じゃなくなっ  
てできるだろ。

薫、戻って来る。

斑鳩、俺がいなくても、みんなで証明してくれ。地球は丸かったと。

薫、去る。

桃髭、置いてある絵本を手取る。

桃髭

何日が過ぎたでしょう。ついにマゼランは思っていた通りの場所、大陸の果てに辿り着きました。海峡の荒れ狂う波の中を進むのは簡単なことではなく、何人もの犠牲者が出ました。やがて海峡を越えたマゼラン達を待っていたのは果てしなく続く穏やかな海でした。最初はみんな大はしゃぎでしたが、行けど行けど、見えるのは海と空だけです。九〇日が過ぎました。食糧は尽き、病人が増え、船乗り達は次々と死んでいきました。

桃髭

海峡の向こうには果てしない海が広がっていました。最初はみんな大はしゃぎでしたが、行けど行けど、見えるのは海と空だけです。九〇日が過ぎました。食糧は尽き、病人が増え、船乗り達は次々と死んでいきました。……船は、何日も何十日も、太平洋を彷徨い続けました。突然、誰かが叫びました。陸だ。若者の目には、それまで幾度となく騙された蜃気楼ではない、本物の島が映っていました。……その島で若者を待っていたのは、大きな感動でした。東南アジア出身の召使いエン



リケの言葉が、この島の人に通じたのです。若者は、とても感動しました。地球が丸いことが証明されたのだ。エンリケが、ひとりの人間が、地球を一周したんだ。次はいよいよ自分の番だ。

嵐。全員、慌てた様子で積み荷を移動させたり、帆を上げたり、懐中電灯を持って甲板を徘徊したりしている。

菜穂子 マミちゃん！ 何処お？

蓮司 いた？

菜穂子 いないよ？

蓮司 ええ？

菜穂子 海に落ちたとかじゃないよね。

蓮司 縁起でもないこと言うなよ。……まさかそれは……。

菜穂子 この暗さじゃ探しようがないよ。

マミ高田に連れて来られる。危機感なく徘徊している。

高田 救命ボートの中で寝ていました。

全員胸を撫で下ろす。

葉子 マミ。外は危ないから、中に入りなさい。

葉子がマミの手を取ろうとすると、マミ、ヒステリックに拒絶し、逃げ去る。

菜穂子 マミ姉！

菜穂子、マミを追いかけて去る。

葉子 マミ………。

三郷 ……。

葉子 私のせいなの。

三郷

先天的な原因だって言われたんでしょ？

葉子

医学のことはわからないけど、ママがああなったのは私のせいなの……。

揺れる船。全員よろける。

\*

前が見えないよ！ みんないる？

\*

聞こえたら返事して！

蓮司

痛！ 狭すぎんだよ。何処が世界最大だよ。

高田

勘違いするな。ボトルが世界一だっただけで。もうこの船に世界一の要素はなに

もないんだよ。

斑鳩

喧嘩売ってるだろ。

高田

今、思えば、ボトル割らずにそのままボトルごと海に浮かべた方が安全だったか

もな。

斑鳩

それでどうやって舵取るんだよ。

三郷

ヨシオの重みでバランスが！

斑鳩

何で積んだんだよ！

三郷 今になって忌々しく思えてきたわ。

斑鳩 おまえらのせいだろ！

薫、派手に登場。

蓮司 親父！

薫 船長と呼びなさい。蓮司、船の生活も少しは慣れたか。

蓮司 今頃出て来て。こんなことして楽しいのかよ！ 何もかも減茶苦茶じゃねえか！

薫 ……とっくにな。

蓮司 ？

薫 とっくに減茶苦茶だった。もっと早くこうするべきだった。

斑鳩登場。

斑鳩 蓮司君、持ち場に戻れ！

斑鳩退場。

蓮司

こういうことがあるんだよ。素人だけでこんなバカなことしてたら、次こそ本当に取り返しのつかないことが起こるぞ。ここまで大して海も荒れずにいたからたまたま運良く進んでただけなんだよ。

薫

……こういうことがあって、初めて身につくこともあるんだ。

蓮司

……本気で言ってるの？

薫

耐性をつけておけ。訪問者は突然来るからな。

蓮司

散々家、ほったらかして思いつきで父親面してんじゃねえよ。マミ姉のことだつて……。

薫

蓮司。

蓮司

（続けて）ずっと菜穂姉のお人好しに甘えて押しつけて。何かに気づいたのは偉いよ。けど、こんなやり方以外にあっただろうが。

薫

聞け。

蓮司

（続けて）菜穂姉に何かあったんだろ。俺だって薄々感じてたよ。けど、俺関係ないだろ！ 受験どうしてくれんだよ！

薫 聞け蓮司。

蓮司 煩いよ。

薫 儂、癌だ。

間。

蓮司 ……え？

葉子登場。

蓮司 え？

葉子 ……。

蓮司 ……何それ。

葉子 ……。

蓮司 何それ。

葉子 時間がないの。

蓮司 母さん、知ってたの？

斑鳩登場。

斑鳩 蓮司君、持ち場に戻れ！

斑鳩退場。

蓮司 持ち場って靴磨きなんだけど……。

蓮司、葉子去る。

三郷登場。

薫 何かホント嘘みたいだ。体も調子がいいし。自然に帰ることで勝手に治ったりしてな。

三郷 そうだよ。

三郷、サイン。

薫 サトラレか……。

三郷 え？ 出た？

薫 ああ。

三郷 薬が効いてるから。

薫 ……そっか。

三郷 ……。

薫 悪かったな。

三郷 え？

薫 巻き込んで。

三郷 家族五人だけでこんな船動かせないでしょ。それに船医も必要だろうし。

薫 まあな。

三郷 ……聞いていい？

薫 何？

三郷 何で海賊なの？



薫

……。

薫、ただ笑うだけ。

斑鳩、やってくる。

斑鳩

船長、大丈夫か？

薫

頭が痒い。

斑鳩

搔け。

薫

みんなに救命用具を。

斑鳩

わかった。

斑鳩、去る。

三郷

ごめんね。ていうか、私がけしかけた所もあったし。香芝こそ、本当にこんなこととして良かったのかな？

薫 ああ。

三郷 部外者が顔を突っ込むべきじゃないことは解ってたんだけど。私、持ちたくても持てないから。家庭って。

薫 三郷……。

三郷 菜穂ちゃんと話まだしてないんですよ。

薫 ……何を話してもシャットアウトされる気がする。

三郷 親子だね。

三郷 香芝にお父さんを許すことができるなら。

薫 ……何だそりゃ。

三郷 葉子さんに禁酒サークル紹介したの、お父さんだよ。

薫 親爺が禁酒？

三郷 知らなかった？ 知ろうとしなかっただけでしょ。お父さんね、香芝が家出てから、亡くなるまでお酒断ってたんだって。

三郷、封筒を渡す。

薫 これは？

三郷 葉子さんがずっと預かったまんまだった手紙。葉子さんから香芝に渡しても読ま

ずに捨てるだろうからって。

薫 ……。

三郷 親爺さんね、よく香芝のこと自慢してたよ。

薫 必ず真実は最後に笑ってくれる……か。

三郷 え？

薫 真実ってのは、ここって時には、いつだって自分の想像したのと違うところで笑ってやがる。

三郷、去る。

菜穂子登場。

菜穂子 三郷さんから聞いたんだって？ 中絶のこと。

薫 ……。

菜穂子 別に後悔とかしてないし。私は私の思う通りにしてきただけ。今までもこれからも。

何とも思っていないから、気にしないで。ていうか、言われるまで忘れてたくらい

だし。

薫

……。

菜穂子

家さ、完全に出ることにした。帰ったら荷物全部運び出すから……。

薫、懷から菜穂子の携帯電話を出す。

菜穂子

壊したんじゃ……。

薫

沢山登録してあるな。

菜穂子、奪い取る。

薫

最近の携帯はややこしいな……。

菜穂子

人の携帯勝手に覗いてんじゃねえよ。

薫

その中に名前だけで二人、電話番号もメールの住所も登録されてないのがあった。

どっちも香芝ナントカって。下の名前は聞いたことない。

菜穂子 ……。

薫 一番に出てきたぞ。そんな上に登録してて、どうやって忘れるんだ。名前までつけて。何でそうやって自分を犠牲にするんだ。

菜穂子 もういいって！

薫 男が望んだからか？

菜穂子 関係ないだろ。

薫 心配してるんだ。

菜穂子 しなくていい。

薫 後悔してるのか。船だけに。

菜穂子 だったらどうだってんだよ！ あんたには関係ない！

薫 何ができることがあれば……。

菜穂子 何もない。

薫 儂は。

菜穂子 何もない。

薫 お前に。

菜穂子 何もない。

薫 何かしてやりたくて……。船に乗せたのだって……。

蓮司、怒鳴り声が聞こえて、何事かと登場。陰で様子を伺っている。

菜穂子 ふざけんなよ。勝手なことすんなよ。そんなただのエゴじゃねえか……。私の

ためなんかじゃないだろ。自己満だろ。私が望んでると思ったとか、何、決めつけんの？

薫 男に言われたことそのまま僕に言うんじゃないよ。

菜穂子 ……。

薫 おまえがホントにやりたいようにやってるなら、何も言やしねえよ。何もないことないだろうが。

菜穂子 だったら時間を巻き戻せるかよ！

間。

薫 ……わかった。

菜穂子 何が!? できるわけないだろ!

薫 大学へ行きなさい。

菜穂子 え?

薫 菜穂子は高校出てないから、大検取るところからだ。

菜穂子 ……。

薫 届けは、出してある。

菜穂子 ?

薫 家に金なくて、蓮司一人大学行かせるのがやつとだとか、儂が高卒だから大学に行く意味なんてないと思ってるとか、おまえこそ勝手に決めつけんじゃねえよ!

菜穂子 ……。

薫 別におまえが、この先どんな人間になろうが儂の知ったこっちゃないよ。儂がどんな父親だと思われてるかもな。鬱陶しがろうが何だろうが。ただな、今のおまえの心が泣いてるのはさ、そりゃほっとけないだろうが。……いいか、頑張んな。適当にやれ。

菜穂子 ……もう家には戻らないから。

菜穂子、去りかける。

薫 それでも構わん。……ウチに戻りたくないなら戻らなくていい。けど、戻る場所

がないわけじゃないんだからな。

菜穂子 ……。

退場しかける菜穂子の前に高田登場。

高田 あれが父親の言葉か。聞いてて呆れるよ。今まで、散々家庭ほったらかしにして

おいたのだろう。父親面されても今更だよな。

菜穂子 ……。

高田 ほんの何日か、家族に目を向けただけで、取り戻せるだなんて、烏滸がましい話だ。侵されたくない領域、ズカズカ土足で踏み躪って、挙句の果てに君らこんな厄介



に巻き込んで。そのままにしておけばよかったんだ。なあ。ホント愚かな親を持つと大変ですね。

菜穂子、高田の頬を平手打ちして去る。

高田

……。

斑鳩登場。高田の正面に立ち、指示を待つ。高田、斑鳩の頬を平手打ち。

斑鳩

どうして！

高田

…何の用だ。

斑鳩

社長。どうするんですか。どんどん嵐の中心に近づいています。

高田

どうする、船長さんよ。

薫、酒を喰らっている。

高田

赤髭。船が沈まないよう、ぐっと押さえておけ。

斑鳩

え？

高田と斑鳩、去る。

桃髭、絵本を手にする。

桃髭

船は、何日も何十日も、太平洋を彷徨<sup>さまよ</sup>い続けました。突然、誰かが叫びました。陸だ！

若者の目には、それまで幾度となく騙された蜃気楼ではない、本物の島が映っていました。…その島で若者を待っていたのは、大きな感動でした。召使いエンリケの言葉が、この島の人に通じたのです。若者は、とても感動しました。地球が丸いことが証明されたのだ。エンリケが、ひとりの人間が、地球を一周したんだ！

マミ、いつの間にか浮き輪を持って登場している。

薫

……  
(気配に気づき) マミか。

マミ おそらく。

薫 飲むか。

マミ 飲むか。

薫、マミに缶酎ハイを持たせる。

薫 菜穂子の船出に。

乾杯。缶ビールを啣る薫。

薫 門出か？ ま、いいや。

マミ ……。

薫 菜穂子はさ、五人で動かす船を一人で漕いでたんだな。……だから疲れたんだ。うん。

マミ 疲れた……。

薫 疲れて、降りてちゃったんだ。ひとり乗りのボートに乗って。今まで自分の行きたい場所にも行けなかった分、自由に漕いでんだ。その自由、奪っちゃ駄目だよな。

いつまでも菜穂子が必要としてちゃさ。

マミ

……。

薫 …… いつもだ。壊れかけた物を修理しようとする、却って悪化させてしまう。

マミ

悪化させてしまう……。

薫 …… マミのことだって。全然わからないんだ。何考えてるのか。どうしたらいいのか。

時間作って海賊になってみたけど、意味なかったあ……。笑えるなあ。

マミ

笑わない。

薫

え？

マミ

どうして笑う？

薫

儂は……。

マミ

解ろうとしてくれた。私のことわかうと一杯努力してくれた。どうして笑う？

薫

真実……？

マミ

笑わないよ。笑う訳ないだろ。ありがとうって思ってる。父さんの娘でよかったっ

て思ってる。自信持っていいよ。無理することないから。もういいから。

薫

マミ……。

マミ俯く。物陰で様子を見ている蓮司。

薫 ……笑ってくれよ。

マミ ?

薫 笑ってくれよ。マミ、お前さ、感情、何処に忘れてきたんだよ。

マミ ……。

薫 まだこんな小さい時にさ、マゼランの絵本、あれ見てマミ、ニコって笑ってよお、「海賊になりたい」って。マゼランは海賊じゃないって言ってるのに、海賊になりたいって。なあ。

マミ ……。

薫 ……海賊になったんだぞ？

マミ ……。

薫 ……もう覚えてないのか？ ……海賊になる夢も。 ……笑い方も。  
蓮司 ……。

錆びついた表情筋。それでも懸命に笑顔を作ろうと試みるマミ。

薫  
マミ………？

ぐちゃぐちゃな表情でマミの頭を撫でる薫。

薫  
みんなその本が好きだったな三人とも。蓮司はそれ見て絵本出版する人になりた  
いって言うし。

蓮司  
(覚えてた……。)

薫  
菜穂子はそれ見て、天狗になりたいて。

蓮司  
……。

薫  
世界一周でもするか。この船で。

マミ  
世界一周……。

薫  
マゼランみたいにさあ。

マミ  
マゼランは途中で死んだんだよ。

薫  
……そうだったな。

マミ 帰ろ？

薫 え？

マミ ウチに帰ろ？

薫 ……そっか。ああ。帰ろう。

マミが背中を向けたところで薫、気を失って倒れる。ドサっという音にゆっくり振り返るマミ。倒れている薫を見ても何か反応するわけでもなく、ただゆっくりと体を揺らしている。蓮司、飛び出す。

蓮司 父さん？ おい、父さん！（頬を叩く）姉ちゃん、三郷さんを読んで！

マミ お父さん、もう眠たいんだよ。

蓮司 何言ってんだ、マミ姉！ おい、親父、親父！

マミ 眠たいんだよ。

蓮司 （悲鳴のような叫びで）三郷さーん！ 三郷さーん！！ 三郷さーん！

三郷、葉子登場。冷静に薫を見つめる。

三郷 香芝！

蓮司 三郷さん。父さんが……。

三郷、薫に駆け寄り、脈や瞳孔を確認。

三郷 葉子ちゃん。最初に断わっておいた通り……。

葉子 うん。

三郷 大した医療道具も持って来ないから、気休めくらいの処置しかできないよ。

葉子 解ってる。

蓮司 解って？ 何でこうなることを承知で止めなかった？ こんな陸から離れてし

まったら、病院にも行けないだろ！

葉子 解ってたからよ！

蓮司 ……。

葉子 気づくのが遅かったの。

蓮司 嘘つけよ。あんなピンピンしてただろ？

三郷 モルヒネで抑えてたから。



間。

蓮司 何か方法あるんだろ？

葉子 方法？

蓮司 移植しても駄目なの？

葉子 移植って？ 何処にあるの？ その肝臓は。

蓮司 ……。

葉子 何処にあるの？ ここに持って来て。

蓮司 ……。

斑鳩登場。

斑鳩 何してるんだ。蓮司君。

蓮司 ちよっと黙ってるよ！ ……見てわかんねえのかよ。

斑鳩 見えてないのはどっちだ！ 下見ろ！ 浸水してるだろうが！  
蓮司 ！

斑鳩

ここはひとりついていけば足りる。

斑鳩、蓮司に柄杓を押しつける。

葉子

斑鳩さんの言う通りよ。母さんが残るから。蓮司行って。

蓮司

……。

斑鳩

さあ、マミちゃんも！

斑鳩、マミの手を掴む。マミ、喚いて拒絶し、斑鳩の手を噛む。

斑鳩

痛！ 蓮司君、先に行ってるぞ。

三郷

鞆持って来る。少しでも痛みを和らげられると思う。

蓮司

起きろよ。あんたの船だろうが。

斑鳩

……俺の……。

蓮司

指示出せよ！

斑鳩、三郷退場。

蓮司 何で柄杓なんだよ。

マミ ……。

蓮司 マミ姉、父さんいなくなるってさ。

マミ パパ、寝てるだけだよ。

蓮司 もうずっと目を覚まさないんだよ。

マミ そんな訳ないよ。どしてそんなこと言うの？ そんなやなこと言うの？

蓮司 姉ちゃんだって、本当は解ってるんだろ！ 父さんは病氣なんだよ！ 治らないんだ。

マミ (初めて感情を出して) パパいなくななんないもん！ マミとおウチに帰るって言っ  
たもん！

蓮司 マミ姉、……泣いてるの？

今日までお仕事一杯やったから、お仕事、やり過ぎてなくなったから、お休み貰って一杯遊んでくれるんだもん！ お芝居観に連れてってくれるんだもん！

蓮司 もうできないんだよ！ 死んでしまうんだよ！ 卑怯だよ！ 自分だけ現実から

逃げて！

マミ 何でそんな怖いこと言うの？ 誰なの、お兄ちゃん！ マミのパパのことお父さ

んなんて呼ばないで！

蓮司 ！

葉子 ……マミ。

マミ あー。あー（壊れる）。

蓮司 ふざけんなあああああ！ ふざけんなよおおお！

マミに突っかかる蓮司を葉子、体で止める。

葉子 蓮司！ お願いもうやめて！ 早く行って！

蓮司 でも！

葉子 行きなさい！！

揺れる船。葉子、マミに手を差し伸べるが、マミ拒絶。去りかける蓮司の前に高田登場。蓮司に両合羽を渡す。

高田 ……怖いですか？

蓮司 ……何が？

高田 父親がいなくなってしまうのが。

蓮司 ……だって、こんな急に。

高田 ……心配なのは、学費のことだったりして。

蓮司 ……どういう意味だよ！

蓮司、去る。

軋む船。激しい雷鳴。

薫の手を取る葉子。浮き輪を身につけて床に座り込み、体を揺らし、ぶつぶつ呟いているまみ。

葉子 ごめんねえ……。薫ちゃんごめんね。

菜穂子、登場。

菜穂子 バカだな。ホントに立派な人だったことに今頃気づいて……。

マミ 立派って何ですか、教えて下さい。立派って何か教えて下さい。立派って何？

何が立派ですか。

桃髭 随分安直な言葉で片付けるんですね、菜穂子さん。

菜穂子 何だよ。他人が。

桃髭 今まで適当にあしらっておいて、綺麗にまともに入ってるじゃないですか。オチ

てないですよ。ってマミちゃんは言いたいのかも。

菜穂子 は？ ひとり現実受け入れられずに、壊れてる奴が？

桃髭 貴方のお父さんは何一つ報われなかった。我慢して保つてた普通を貴方は当然の

普通として、何も考えないで来たんです。

菜穂子 黙れ海賊。

桃髭 コンサルタント。菜穂子さんには到底できないだろうことを、やってのけたって、

お父さんなんだから、できて当然だと思ってきたでしょ。後悔こそすれ、評価

なんかね。

菜穂子 そんなこと、解ってる。

桃髭、絵本を拾ってマミに渡す。

桃髭

解っていないでしょ、貴方は。解ってません。貴方これから一生考え続けなければならぬんですよ。結婚して子供を生んでその子供達に理解されないまま老いて朽ちて頭に輪っか生えて漸く口にしてもいい言葉なんじゃないんですか立派な父親だったって。何もしないうちから口にしてしまうのでは、薄っぺら過ぎますね。

マミ

薄っぺらい。

菜穂子

言われなくても解ってる！

葉子

父さんは解ってもらえて嬉しいって思ってるわよ。

菜穂子去る。葉子、薫の手を取る。

マミ

パパに触れないで、おばさん。

葉子

……マミ。

嵐、いよいよ苛酷を極める。マミ、絵本を開き、辿々しく、しかし波音にも劣らぬ声で朗読を始める。

斑鳩登場。斑鳩と二人で、葉子とマミに避難を促すが、マミは拒絶して絵本の朗読を続ける。二人は葉子にマミを託し、薫を搬出する。一連は音のない演技で行われる。

マミ

エンリケが、ひとりの人間が、地球を一周したんだ。次はいよいよ自分の番だ。しかし、喜びも束の間、この島を占領しようと欲張った若者は、逆に原住民に殺されてしまったのです。若い船長を失った船隊は、五か月かけてたった一隻になってスペインに帰り着きました。生き残ったのはたった十八人。中でも新しい船長には、絶大な荣誉が与えられました。航海日誌や若者の貴重な手記は、何者かによって全部焼き捨てられ、必死の思いで記したマゼランの遺言は、何ひとつ実現されなかったのです！

マミ、緩やかに本から目を離す。

マミ

何で気づかなかったの？ こうなる前に。何でも過ぎてしまっまで、気づかないの？

葉子

見えてなかったの。本人だって大したことなざげだったんだから。



マミ 悲しい？

葉子 当たり前でしょ。死んじやうのよ。

マミ 死んだら悲しい？

葉子 悲しいわよ。マミには解らないの？ 誰が死んだって悲しいに決まってるじゃない。

マミ 誰が死んだって悲しいに決まってるじゃない。じゃあ、何でマミの頭お風呂に突っ込んだの？

葉子、思わず自分の口を押さえる。

マミ 何で？ 教えて？ 何で？

葉子 ずっと、心の中で私のこと責めてたんだねえ。二十年も。

マミ マミの肝臓。パパにあげる。

葉子 マミちゃん！ できないのよ。

マミ どうして？

葉子 肝臓がないと生きていけないからよ。

マミ

もういいの。マミ生きてても、誰も喜んでない。菜穂ちゃんも出てった。マミ、パパに生きてほしい。パパいないのに、マミ、生きてたくない。マミの肝臓ならピツタリ合うでしょ。

葉子

無理なの！

マミ

違う！ できるんだよ！ 海賊なんだから。マミもおばさんも海賊なんだから！

葉子

無理なのよ！ 血が繋がってないのはお父さんの方なんだから。

マミ

……。

葉子

本当のお父さんじゃないんだから。マミちゃんが提供したって、意味ないの。気づかなかった？ そうよねえ、これだけお父さん子なんだもんねえ。本当の父親じゃないから、最初は巧くやっていけるか不安だったけど。何てことはなかった。マミちゃん、いつでもパパ、パパ！ お父さん仕事仕事でウチのこと全然してくれないし、私が全部やって、それで貴方の子育て重なって一杯一杯になってても、マミちゃんが背中むずがって、泣き止まないで、お父さん次の日の仕事に差し障り出たらいけないから、私が朝までさすって、それでもパパ、パパ！ 貴方産んだ私のよ！ なのに私ばっか嫌な役回りで。お父さんのお義母さんはボケるし。

世話してたのに、苛められるし。そりゃ子連れの再婚だわ、よく思われることはないにしても、前の旦那が遊び人って何処かで耳にして、そのことで、だらしない嫁って、近所の人がいる前で。でも耐えた！なのに、それをあんたが真似て言ったのよ！ やってられなかったのよ！

マミ

……。

葉子

ごめんなさい。マミ。

マミ

繋がってない……。

葉子

マミだけが味方だったから……。マミだけが……。

浮輪を持った蓮司登場。放心のマミ、蓮司の脇を抜けて、退場。

蓮司

マミ姉？ ……母さんも、これつけて。

蓮司、変な浮輪を葉子に預ける。

高田、桃髭登場。

葉子 ……宝島、見つかりました。

高田 ……そうですか。ではこれで契約内容、無事果たしたということで宜しいですね。

葉子 はい。

桃髭 こちらに署名を。

桃髭、葉子に書類を渡す。葉子、署名する。

葉子 香芝も、満足していると思います。

蓮司 母さん？

桃髭 費用の方、後日請求書を送らせて頂きますので、月末までに、そちらの指定の銀行口座にお振込み下さい。

高田 こんな時にすいませんね。赤髭のお知り合いってことで、気持ち勉強させてもら

いますんで。…それと、ご主人ね、一応表向きは三郷さんの病院にずっと入院してたことにしてもらおうよう頼んでますんで。万一、保険屋の方が渋るようやったら、私の名前出してもらったらいいで。

葉子

本当にありがとうございました。蓮司もありがとうございました。でもこれからは、好きなことできるから。大学行くお金は、父さんの保険が降りるし。

蓮司

何言ってるんだよ！

葉子、高田に会釈し、退場。

蓮司

母さん！

高田

すんませんね。仕事なもんで。

蓮司

ふざけるな。

高田

……ふざけてないですって。仕事ですよ。需要があるからやってるんです。いいですか。蓮司君にはしょーもないことかも知れませんがね。そのしょーもないことを、こうして何もかも投げ打ってまで欲しいと思ってる人もいます。私らはそういう人達が好きでたまらないですよ。ま、ダブルメリットってことで。そういうものなんです。特にこんなご時世ですからね。あちこちで仕事貰っています。何かあったらまたご最厚頼みます。忘れないで下さいよ、私らのこと。蓮

司君が親爺さん位の年になったら、またね、そういう話があるかも知れないし。今は解らないも知れませんが。

高田、桃髭、歩きはじめる。

高田  
そうそう、私らのこと、他の人に言わないで下さいね。一見<sup>いちげん</sup>さんは遠慮させてもらってますんで。

高田、桃髭去る。蓮司、その場に跪く。

蓮司、額から血が滴る。意識朦朧とし、その耳は次第に嵐の音を拾わなくなっていく。

薫、登場。マゼランの格好で、片足を引き摺っている。いつの間にか船は太平洋の真ん中、雲ひとつない空、波は穏やかになり、心身ともに乾ききって。

蓮司  
父さん？

薫  
君も無事か。……随分人数も減ったもんだ。あの海峡を越えて何十日経ったか。何処まで続いてるんだ、この海は。  
蓮司  
？

薫 君は結婚してるのか？

蓮司 ？

薫 私は国に家内と子供を待たせてるんだがな。もう会えるかどうか、解らん。

蓮司 親爺？

薫 なあ、ひとつ頼まれてくれないかな。もし、私がこの旅の途中命尽きたとして、君が無事に祖国に帰ることができたら、その時は、これを家内に渡してほしいんだ。

薫、蓮司に封筒を渡す。

蓮司 言ってることが解らないよ！ しっかりしろよ。

薫 長いこと陸<sup>おか</sup>を見てないといひ弱気になってしまふ。

蓮司 私のが解んないの？

薫 それには、この航海で手に入れた財宝を家族に与えるように指示してある。

斑鳩登場。マゼランの部下の格好。衰弱。

斑鳩

船長、来てくれ。……またひとり死んだ。

薫

祈りは済ませたのか？

斑鳩

まだだ。他の奴が不安がつてる。近く反乱が起きるかも知れん。

薫、力を振り絞り、立ち上がる。

蓮司

父さん？

薫

それ、頼んだよ。

斑鳩、薫去る。マミ、絵本を持って木箱の上に立つ。蓮司、手紙を読みながら震え、意識が薄れ、倒れる。

マミ

でも、のちのち海峡に、若者の名前がつけられたことだけが、たったひとつの報いでした！

全員登場。マミ以外、全員雨合羽。



斑鳩

海がなくなってるぞ！

\*

渦だ！ 飲み込まれるぞ！

高田

全員所定の位置につけ！

斑鳩

回避！ 回避！

三郷

蓮司君。短き生涯、貴方は何で綴りますか？

\*

舵を切れ！ 取舵だ！

斑鳩

取舵一杯！

\*

取舵一杯！

三郷

メーデー！ メーデー！

聞こえますか！

救援をお願いします！

……はい！

聞こえています。

マミ

船長さんが言いました！ 笑って下さい！

菜穂子

船長さんが言いました！ 頑張らないで下さい！

蓮司

船長さんが言いました！ そのままでいて下さい！

葉子

船長さんが言いました！ ただ、生き続けて下さいと！

全員

船長さんが言いました！ ただ、生き続けて下さいと！

全員、携帯電話を取り出し、耳に当てる。

全員　　メーデーメーデー聞こえますか。

ランダムに繰返し、携帯を持つ手をひとり、またひとり降ろしていく。

菜穂子　……メーデー、メーデー、聞こえますか。私はここにいます。

蓮司　……何で、綴る？

マミ　……人で。

全員　　オーバー……。

溶暗。幕。

薫　こんなに早く死ぬことになってごめんなさい！　生まれ変われるのかわからない

けど、その時もみんなの家族になりたいです。

葉子は一度だけ虐待。

薫が高田を雇った案。

高田に何がしたいのか尋ねる菜穂子。

高田は家族を薫に助けられたことがある？

仕事で。父親の仕事を助けた？

高田は恩返し。じゃないと仕事ではやらないと思う。

三郷から連絡をもらった。

三郷と高田には接点があった。ふとした時に会話の中で薫の話が出て、どちらも薫を知っ

ているとわかる。ただし、薫は高田を知らない。

高田、三郷から家庭がうまくいっていないことを知る。そんなのは放っておけない高田。

薫が余命短いことは、三郷の口からは話せないで直接知る？

薫はノリノリで海賊をやるわけじゃない。けどマゼランを演じたことはある。

高田は仕事？ 慣れていない感じで。



真実は笑わない 2014.2.1



真実は笑わない 2014.2.1





真実は笑わない 2014.2.1



真実は笑わない 2014.2.1



真実は笑わない 2014.2.1



真実は笑わない 2014.2.1